

各 位

上場会社名	株式会社 三ツ星
代表者	代表取締役社長 塚本 聡一郎
(コード番号)	5820)
問合せ先責任者	取締役経理部長 塚本 一男
(TEL)	06-6762-6939)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年7月30日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,389	△215	△144	△148	△25.68
今回発表予想(B)	3,303	△231	△184	△271	△47.03
増減額(B-A)	△86	△16	△40	△123	
増減率(%)	△2.5	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	5,811	△102	△127	△168	△29.17

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,432	26	33	15	2.60
今回発表予想(B)	7,176	△355	△323	△417	△72.35
増減額(B-A)	△1,256	△381	△356	△432	
増減率(%)	△14.9	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	9,835	△461	△536	△1,643	△285.11

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,109	△217	△168	△174	△30.19
今回発表予想(B)	3,070	△231	△181	△186	△32.31
増減額(B-A)	△39	△14	△13	△12	
増減率(%)	△1.3	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	5,339	△79	△76	△106	△18.53

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,762	21	20	8	1.39
今回発表予想(B)	6,679	△374	△325	△337	△58.47
増減額(B-A)	△1,083	△395	△345	△345	
増減率(%)	△14.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	9,103	△366	△365	△1,490	△258.64

修正の理由

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、生産や輸出が持ち直しつつあり一部に回復の兆しが見られるものの、企業収益の低迷を背景に設備投資は減少を続け、住宅投資も低迷が続いています。

当社グループに関係の深い建設・住宅業界の冷え込みは厳しく、売上高は3,303百万円と前回予想を86百万円(2.5%減)下回りました。

電線事業では、設備投資と建築着工の低迷が続いており、キャブタイヤケーブルの需要はその影響を強く受け、売上高は前回予想を33百万円(3.1%減)下回りました。

また、電熱線事業においても需要回復の足どりが重く、売上高は前回の予想を47百万円(16.7%減)下回りました。

利益面につきましては、販売量・生産量の減少に対応させ、一時帰休を全部門で実施するなどコスト削減に努めましたが、生産量の減少が収益を圧迫し、営業損失は231百万円となり前回予想を16百万円下回りました。

また、フィリピンの子会社MITSUBOSHI PHILIPPINES CORPORATION(以下「M.P.C.」と略す)の移転にともない、現在の建物附属設備の減損損失82百万円を特別損失に計上するため四半期純損失は271百万円となり前回予想を123百万円下回ることとなり、第2四半期累計期間の業績を修正いたします。

今後の経済見通しにつきましては、経済対策の効果が期待されるものの、企業収益の減益基調が続くと見られることや雇用・所得環境の厳しさが続く可能性が高く、住宅投資は低迷が続くと見込まれ、設備投資も設備過剰感が依然高い水準にあり減少基調が続くと見込まれることから、景気は期初の見通しよりも厳しい状況が続くと予想されます。

また、原油価格の上昇や円高の進行など原材料・為替相場の変動など懸念材料もあり、先行きは非常に不透明であります。このような状況と第2四半期累計期間の結果を踏まえ、通期の業績予想を修正いたします。

売上高については、既存顧客への提案・サービスを強化し、新規案件の獲得や新商品の投入などを図り、既存顧客・市場以外への販売強化に向けて取組みをさらに強化し販売量の確保を図ってまいります。しかし、建設・電販など主要な販売市場の回復が依然として見込めない状況であることなどから、下期は上期に比べ17.2%の増収を計画しておりますが、通期では前回予想を14.9%下回る7,176百万円と予想しております。

利益面につきましては、全社的に経費の削減を含むコストダウンに取り組んでまいります。しかし、銅価格をはじめ原材料価格が上昇傾向にあり、需要の減少にともなう販売競争の激化から販売価格への適正な転嫁が困難になることも見込まれることから、営業利益は上期よりも下期は107百万円改善するものの、営業損失355百万円を予想しております。また、経常損失は323百万円、当期純損失は417百万円を予想しております。

なお、このような環境のもと当社は業績改善のため、海外市場の開拓と商品力を強化するため、M.P.C.を移転し増強するほか、タイに海外子会社を設立することを決めております。

個別業績予想につきましては、連結業績予想と同様の理由により、通期で売上高は前回予想を14.0%下回る6,679百万円、利益面に関しては営業損失374百万円、経常損失325百万円、当期純損失337百万円を予想しております。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算定しており、今後の経済状況等の変化により、実際の業績は予想値と異なる結果となる場合があります。

以上